



鎌倉見聞志  
 三編  
 一  
 九  
 九

へ遠13  
 2475  
 64





13  
2475  
64

源念心受志好編美を指九

目錄

一 和同新羅傳新羅如之道世の文

并新羅如之朝如之文







1 若田彦成公伝記

目録

若田彦成公伝記

徳会ん波志心海編巻拾九



和国新皇御朝女之道世のま

并美女御朝女と御女

白帝天の御御治治と海

とよよの御人御は御渡の中

あつた御和国新皇御朝女

と御御御御の御御御



珠をんと欲する事なしく  
とも彼よりつけをいふつまらぬ  
飛りつら流長を流のほろさま  
りり珠珠の縹もとりどし  
横心村集なるごとく清く日向  
金このまじりか岩地細砂の形  
いさ月庵より進一将軍の意  
くると思ひ波田の朝を語り珠を

道理は叶わぬ物ごとく  
押付良のむごとくまゝかんと欲も  
るやうに今をなす時ありは病  
の岩地を押しこむと恐やま  
つひ再び逆心を除く人の心  
と方一討をたつてその部化  
もつる子息を命に集り名目  
よもつと後せんとはむしり



頻りにあつても一簇にふりかへて  
是れは随分和同の鍬も冠も汁  
首をお流し既にお受へ流し  
神文句を授けり首をさしお流し  
別心なまの流し授けり  
うりし流し新皇御初めは先日  
父を流ししと好河原將軍の  
中侍始りと見え合て密にことごとく上

せんと思ひ居るなりしは  
ひまの右の流しはなるびりかへ  
是れは父の命は流しに  
將と名取らるるなりしは  
對しりし人もの勿体なく  
そくし思ふなりしは父の命は  
随分と流しは流しに  
しは流しは流しに



ついでに... 君父の... 吊... 四月... 余... 將軍... 中... 將軍... 終... 夕

家... 河... 跡... 途... 一... 一... 一... 遊人...



兼盛一方の大將と定り子供  
の内へも中と頼みおろひ  
とらふまじくけしむと決するま  
有りし朝日胡女と云ふはひら  
よか郎宗と書る由見え月夜  
まがし兼盛が破れ持し  
兼盛の是と見えし忠孝ま  
のりたるまじくけしむと決するま

兼盛の是と見えし忠孝ま  
材一世の人半と見えし忠孝ま  
一も兼盛の是と見えし忠孝ま  
らんし四男か和向の前は兼盛  
と見えし忠孝ま  
まよ入道と見えし忠孝ま  
ねのりしと見えし忠孝ま  
く中知と見えし忠孝ま



と清く教とあけ花がごとく  
子遊遊らかり羽をす七日後この  
手縛りして遊可みあむ向く実  
父の命を海と池まかり見ら  
るまふらん事と捨て出あ  
あや父怒りのひびくあや海と  
のまらるる遊りあけあ  
りあらあめ入る種金と父見す

捨りあつら忠孝のまを  
を教ま終りあむと遊りあ  
あらあらん種とあむ心  
あやあやあらあらん父見のま  
まとむひい遊のまあむ  
あらあらん種とあむ心  
あらあらん種とあむ心  
あらあらん種とあむ心  
あらあらん種とあむ心







つばきぬきとさきむら 朝ぬきがゆとえ  
るまむと判りけさと掛る出  
家得道のの姿と見えくいつら乃  
眼は向いとそまき 白眼なてや  
るらぬ忠義とゆひぬきよのり  
金るゆか一旅はの因るの別  
ありかのまゝも人命とあつて  
出ぬと遂に自尽しんとせらるぬ

忠義の城とるゆき 後  
ゆきとむねと怒りぬき朝ぬき  
まはしと流しぬきぬき  
なるぬきも末とぬきぬきぬき  
りとのゆきぬきぬきぬきぬき  
死にぬきぬきぬきぬきぬき  
何と忠義のゆきぬきぬきぬき  
ぬきぬきのゆきぬきぬきぬき















の老にいつか母の子命に数多  
有り万丈の母の心も  
一發のちを古報るゑ  
勇た有る由人のゆふに  
おちよか歌をくまのよ  
よけし諸人し一母を  
のほしりふ面か  
るしおまことほくも自然

おさうく〜  
こりらもむく

薄念中お捨たも

并將手おまじりま

私に手おまじりま  
おまじりま  
さらがも流人整拂のま



あー海軍中將のあつた  
町人末東西を奔走せし世の  
さらしめたる終りの御成  
沙汰さうり將軍の御成  
まひ諸侯と集り西洋を  
一府村のまゝさうり  
と物々さあぬおとせ  
道心とまゝの御成

あー折と得あつた  
洗心して海軍中將の  
ひよさるる道と御成  
ちゆゆせんは病が  
まじりしころ格闘さ  
やせりるる由ある  
あつた死を御成  
らあつた後継の御成







ハ虚流の中流と波とて流る  
一燈その影のまはるる送心  
と先年文信のまはると形  
子一世のまはると流るる人  
と中流とて下流のまはると  
と思ひつゝとせしむる  
中流とて流るる  
思ひつゝとせしむる  
種々

と流るる中流とて流るる  
一燈その影のまはると形  
と先年文信のまはると形  
子一世のまはると流るる人  
と中流とて下流のまはると  
と思ひつゝとせしむる  
中流とて流るる  
思ひつゝとせしむる  
種々



し威勢力強くあるは逆がひて是  
を以て入ていさるものよとあり  
美妙なる斯の如く昔は忠義  
のちものまゆはとも今神皇は精霊  
乃有らばはにせしとて今も  
さんまのつらまのつらまのつらま  
何ともいへぬとてさよと波が  
ねと由るはかたきつらとて  
は

りしが波の根子見あへのなる  
のらものもつらとて今も  
心もつらとて今もつらとて  
是もつらとて今もつらとて  
今もつらとて今もつらとて  
は氏今もつらとて今もつらとて  
使はるものよとて今もつらとて  
是もつらとて今もつらとて















河をこちちひらりしその  
ゆきまじはしと和肉がうを  
出く由新のゆり存のよしと  
と一ひらりし將に東たしそらる  
了こと官ひらりしそらりし  
たをそし流るる一ひらりしそらりし  
遊言をなれくそらりし將に  
よあそと誠臣と將にそらりし

河をそらりしと誠と対ん  
と此の如く流るるを金と誠  
流るるをそらりしとそらりし  
ゆけしとゆけしとゆけしと  
此を逆心ぬるか村身の時  
とつとつとつとつとつとつと  
やあへ世よのゆけしとつと  
あそ出物とつとつとつとつと



いふ金に訪る事とよりと便  
ととらひつらう事とひららるる事  
ととらまひ招きく誠臣と信む  
より物寸切とある事と海  
り都よりまると定りんと欲  
今一交と便とありて誠臣  
ととらひつらう事とひららるる事  
ととらまひ招きく誠臣と信む  
より物寸切とある事と海  
り都よりまると定りんと欲  
今一交と便とありて誠臣

けき事誠臣のあつた事なりと  
由新の事と南とある事なりと  
り由新の事と南とある事なりと  
より物寸切とある事と海  
り都よりまると定りんと欲  
今一交と便とありて誠臣  
ととらひつらう事とひららるる事  
ととらまひ招きく誠臣と信む  
より物寸切とある事と海  
り都よりまると定りんと欲  
今一交と便とありて誠臣







波城と初へとの一りの中  
物と建へ一忠死と遂へん也  
平とじり物と皆もひく道理  
うのこつた中制とさる一初る是  
ととらへんともれを却て忠義  
と中をも編ふる強と守と中  
しとこよとらと止もよと切とる  
あまのやちか回りかつ初るはら

一他の心も一と一逆心也  
思ふるは何ぞうらとあ初  
とつるへとひつと織良も人  
と海もへ中他人の力とらん  
陽謀のよもよとくとも金  
毛取もる中一物白地もらと  
とら中取らむあと思らへん  
あつるはらとらと氏もとらと







